

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100381		
法人名	キタノケア株式会社		
事業所名	グループホームかつらぎ 1階		
所在地	千歳市桂木3丁目1-2		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 5 月 13 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171100381-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の住宅地にあり緑が多く、近くには公園・千歳川等があり季節感を満喫し自然と触れ合う機会を多く作っています。家庭的でゆっくりと過ごせるように雰囲気作り心がけ、その人が何をしたいかという気持ちを尊重し出来るだけ個人のニーズにあった支援を心がけております。介護職員は運営理念「支え合い、喜び合い、ふれあい、慈しみあい、地域の中で共に歩みます」を念頭に向上心を持って業務に従事しています。また月に一度の社内研修もおこなっている。(昨年2月以降は新型コロナウイルス感染症対策として中止)管理者・職員は事業所間の交流を密に行っており、ちとせの介護医療連携の会を通じて外部からの講師を招いての社内研修も実現している。利用者様が重度化した場合においても医療機関との連携がスムーズに図れるように病院・調剤薬局と連携しています。提携医療機関・提携介護施設と協定を結び、災害時を想定し他施設に移動する等、合同避難訓練を実施しております。行事やイベントも積極的に発信しており近隣の方の参加もみられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR千歳駅から支笏湖通りを10分程の住宅地に立地し、千歳川沿いの桜や紅葉など自然に恵まれた環境にある。利用者は居間のソファで寛ぎながら職員と会話を楽しみ、表情穏やかに過ごしている。運営理念に、「地域の中で共に歩みます」と地域に密着した事業所として掲げており、町内会の一員として、清掃作業等の町内行事や、市民盆踊りに参加したりして住民と交流を深めていたが、現在のコロナ禍により交流は自粛されており、また、千歳市「災害時応援協定緊急連絡網」を活用しながら住民の参加協力と、近隣事業所と合同での避難訓練の実施も自粛となっている。千歳市は介護医療日本一を目指しているため、委託を受けた「ちとせ介護医療連携の会」の充実を図りながら、介護医療カレッジを開講して介護要員の育成を目指し、介護医療日本一の目標を掲げている。千歳市の介護グランプリに参加し、職員が優秀賞を受賞したことで、介護レベルをアップさせるきっかけになっている。職員も利用者と共に過ごす生活から、この功績を活かしながら利用者の居心地の良い生活を支援している。感染症予防対策として、温度・湿度管理や定期的な換気を行ったり、アルコール消毒をこまめに行ったりしているが、加湿器の増設や空気清浄機のエアドッグを導入して、利用者や職員の安心及び安全な環境に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	56	<input type="radio"/>		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど描んでいない	63
57	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関・休憩室・事務所・リビング等の人が集まる所に掲示しておりミーティング時には唱和し実践につなげている。	事業所理念は玄関や事務所などに掲示し、会議等で職員全員は唱和し、理念の実践に向け話し合っている。利用者と家族が入居する時に、普段のケアを知ってもらうために理念を通して説明している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣事業所の行事に参加している。	緒町内会に加入し、町内の行事や住民との交友を深めていたが、現在のコロナ禍により全てが自粛している。高校よりインターシップがあったが、同様に交流は自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流会や運営推進会議を通じて認知症のかたへの理解や支援の方法を深めており、市民に向けた研修会を絆の会やちとせ介護医療連携の会等が行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い日常の活動報告をしています。新型コロナウイルス感染症対策として令和2年3月の推進会議より書面にて報告・平穏日和を一緒に郵送する事で活動報告をしており、参加されている町内役員の方、ご家族の意見や要望を聞き、サービス向上に努めています。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、家族等が参加して年6回開催していたが、コロナ禍により職員による推進会議を書面会議とし、運営状況や事故報告等を記載した会議事録を参加者に発送して、参加者より意見やアドバイスを受け運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千歳市はもとより各種関連団体と協同して、市民参加型のイベントを企画し、地域包括ケアの実現に向けて取り組んでいます。	書面会議の運営推進会議でも、地域包括支援センターの職員に、事業所の実情を理解してもらっている。千歳市は介護医療について力を注いでおり、「ちとせ介護医療連携の会」に事業所も参加している。また、介護ランプリに参加する等、行政との連携は取られている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外・社内研修で職員全員が身体拘束を行わないケア勉強し実践している。玄関の施錠については防犯上、夜間のみ施錠している。	身体拘束については拘束による弊害も含めて正しい知識を全職員が身に付けており、常に拘束のないケアを実践している。毎月一回の外部研修会に参加し、研修報告を全職員で共有し、身体拘束をしない介護を実施している。	身体拘束適正化委員会を開催しながら、身体拘束の内部研修の充実を期待するとともに、身体拘束と虐待に関するマニュアル整備をしていくことも期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時の資料や社内研修で話し合う等実施している。			

グループホームかつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は居ませんが以前に成年後見制度を利用して利用後見利用者もおり必要性について話し合える体制を構築しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に重要事項などの説明を十分行い、理解・納得した上でサインして頂いています。契約内容の改定に関する疑問等には随時説明して理解・納得を得られるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱に設置をしています。日々の生活の中でその方の思いを汲み取るように努めておりご家族とは来所時等に近況報告し意見・要望を聴くようにしております。また遠方のご家族には定期的に連絡し近況報告を行い意見・要望を伺っている。	家族が運営推進会議に参加したり、それ以外の家族も来訪して状況報告をしながら意見や要望を確認し運営に反映させていたが、現在のコロナ禍により直接会う事は自粛している中、電話や「かつらぎのお便り」通信を通して意見や要望を聞き運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	4ヶ月に1度、全職員の面談を実施し、意見や提案を聞く機会を設け改善につなげています。	管理者は職員からの日常業務や支援方法に関する率直な提案や気づきを尊重する姿勢を維持している。4ヶ月毎に全職員の面談があり、50項目の設問方式で自己評価の提出と意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って働けるように努めている。面談時に自己評価をしてもらい今後の目標設定を本人と話し合い設定し実現、評価昇給制度を適用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービスの団体「絆の会」や「ちとせの介護医療連携の会」市町村等よりの研修の案内を全職員に伝え受講できるように調整しています。バーチャルリアリティ・動き出しは本人から等多数の研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ちとせの介護医療連携の会(ホームページ http://chitose-renkei.sub.jp/)で様々なイベントを実施し、関連職種の交流を深めています。管理者は市民病院の職員むけにグループホームについての講演を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前より定期的に連絡をさせていただき、話を伺える機会を設けている。顔なじみの関係を作るように努めている。担当のCM・SWから情報を頂き本人との関係づくりにいかしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居希望申請書(ADL・生活歴・認知症状・既往歴・利用施設・ご家族の意向等)にそってご家族の要望・意見を十分伺い、入居後は面会時等の際に入居者様の日常生活の様子・身体的な事をお伝えし相談した事をモニタリングに反映しており気楽に話して頂ける関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人や家族の思い、状態を確認して、必要なサービスに繋がるように柔軟な対応をしています。安心して穏やかに過ごせるように本人の言葉や思いをくみ取りケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で楽しんで頂けるように常に考え職員間で情報を共有し仕事をしていきます。重度化が進む中で日常生活において「出来る事・出来ない事」を話し合い見極めるように努めており一方的ではなく共感する事が多い関係を築けるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の様子や出来事、気づき等を面会時やお便りでお知らせしています。行事へのお誘いや玄関に行事・研修等のお知らせを掲示しご本人・ご家族が共有して楽しめるようにも努めています。中々来る事が出来ないご家族もいますので職員が親身になり寄り添っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了承を得てタクシーで知人宅に出かけ食事をし、お墓参りに出かける、選挙に出かける等、繋がりを継続出来るように支援しています。	コロナ禍により普段の外出は自粛している。通院時に感染症予防をしながらドラッグストアに行ったり、付近を散歩したり畑づくりに出たりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がお互いの居室の行き来されたり、食事の際に声を掛けて下さる事もあり、スタッフを交えて会話・歌・作品作り等をし支えあい生活しており職員はその支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時はSWと連絡をとりながらできる限り面会に行っており、医療が優先で退居された場合においても必要に応じて支援させていただく旨を伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報・入居希望申請書・担当CM等から習慣や趣味等を把握し日常の会話から意向を伺いカンファレンス等で検討している。	日々の関わりの中で出来るだけ声かけをして、思いを把握するようにしている。日頃の言動からも希望や意向を汲み取ったり、家族からの情報を参考にしている。定期的に基本情報を更新している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望申請書・市役所からの認定時の情報、ご家族・本人からの情報。日々の会話の中から生活歴・交友関係等を探り、より良いケアの為に役立てます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その保の心身の状態を見極め、できる事・出来ない事を支援しています。見守りし待つ事で出来た時は達成した喜びを一緒に共有し感謝の言葉を伝えています。また生活記録・申し送り等で日々の情報を共有しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心としてご本人・ご家族に意見や思い・意向を伺いモニタリング・カンファレンス・ミーティング時に生活記録をもとに職員の見見も反映した中で介護計画を作成しています。	利用者や家族から希望などを把握し、職員で毎月カンファレンスを行いアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、3か月毎に計画の見直しをして家族に説明し承認を得ている。変化が生じた時は現状に即し、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を用いてケアの実践、結果、気づき等日常の様子をケアプランに沿って記入しており各自申し送り、情報の共有ができています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診対応・訪問看護・訪問歯科・薬局との連携・クリーニング委託・訪問理美容・新聞の個人購読・ヤクルト・パンの移動販売・福祉用具業者等様々な業者が出入りしており柔軟な対応をしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	千歳神社祭への参加。シルバー人材センターに宛名書きを依頼している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応でかかりつけ医に受診されている方・病状が安定しておりご家族と相談の上、往診を受けている方がおります。週1回訪問による健康チェックを行っており情報を共有しています。特変時等で家族が付き添えない場合は情報提供書を持参し受診対応しています。	利用者と家族等が希望するかかりつけ医への受診ができるよう支援している。コロナ禍の為に、受診時は介護タクシーを利用して家族が同行している。どうしても家族等が同行できない場合は職員が同行している。コロナ禍の規制緩和が見込めないため、職員同行のケースが増えている。協力医による往診は月1回あり、訪問看護師による利用者の健康管理は週1回実施している。訪問歯科は2週間に1回、マッサージは週2回来ている。		

グループホームかつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1回の健康チェックを受けている。日頃より密に報告しており入居者様の特変時は訪問看護・かかりつけ医院へ相談し適切な受診対応を心がけている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しており、ご家族・医療機関の相談員と連携をとりながら早期退院に向けて話し合いを行っており円滑な業務ができています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の事業所が対応しえる最大のケアについて説明しています。また重度化した場合でも協力機関と連携しながら、訪問看護サービスを活用しGHでの生活を支援しています。地域関係者・介護医療連携、地域包括ケアの推進に努めています。	重度化や終末期における事業所として可能な支援内容については、本人や家族の意向を最大限尊重し、ホームとして出来ることを入居時に利用者家族に説明をして、対応指針に同意を得ている。重度化した場合は、利用者家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしているが、見取りについては段階毎に家族等に意思確認を行うこととしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・外部研修への参加で急変時の対応は繰り返し行っている。心肺蘇生用背板の常備、特変・急変時の対応を職員が直ぐに見られるように掲示している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	千歳市の各関係団体による災害時応援協定緊急連絡網を整備しています。また近隣の事業所と協定を結び、合同で災害時を想定した避難訓練を実施している。	コロナ禍で消防職員と地域住民の立ち合いはないが、火災想定避難訓練を年2回実施しており、千歳市「災害時応援協定緊急連絡網」を活用し、年1回の住民と近隣事業所との合同避難訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修で1年間をかけてユマニチュードを勉強しており誇りやプライバシーを損ねるような声かけをしないよう努めており個々の人格を尊重した声かけをしています。	尊厳について職員間で話し合う機会を設けて、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけがないように職員間に周知している。認知症へのユマニチュード(フランス語:人間らしさ)等の内部研修や外部研修を各月1回参加して、情報は職員全員で共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で希望や願いを引き出せるように取り組んでおり、上手く伝える事ができない人は表情・行動・サインを見逃さず自己決定できるように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様のペースに合わせて、その人が何をしたい等の希望をできる限り、くみ取り支援しています。			

グループホームかつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣服選び、身支度はご本人が自由に選べるように見守りしている。お化粧・アクセサリは個々に合わせて支援しておりヘアスタイルはご自分で希望を伝えられています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の得意な事(皮むき・盛り付け・食器洗い・拭き・片付け等)をお手伝い頂いている。日常の中でさりげなく食べたい物を聞き取りできる限り早く献立に反映している。	利用者の希望に沿ったメニューを考え、業者から食材を購入し、職員が調理をしている。利用者には下ごしらえや配膳、食後の後片付けを手伝ってもらっている。季節の行事食や誕生日などは利用者の好みや要望を反映した食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量・形態(刻み・ミキサー・トロミ使用等)を工夫して提供している。水分摂取が難しい方にはゼリー状と提供している。食事の際は出来るだけ自分で召し上がれるような食器選びを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時は義歯を預かり洗浄剤を使用し清潔を心がけており、毎食後個々に応じ継続的に口腔ケアを支援している。訪問歯科も定期的に来所しており相談し対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っている。退院時等オムツで戻られた際は立位可能であればオムツを外し生活の中でのリハビリでトイレでの排泄に戻れるように支援している。	排泄チェック表を活用し、定期的な時間で声掛けや誘導を行っている。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物を多く取り入れバランスの良い食事を心がけており乳製品・オリゴ糖も取り入れている。水分チェックも行い本人が好物を提供している。便秘が続かないように医師と相談し下剤を使用し排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声かけを行い入浴準備を一緒に行う等し入浴を楽しめるように支援している。室内温度や入浴剤にも注意を払いリラックスして入浴できるように努めています。入浴後に保湿のお手伝いもしています。	利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取り組んでいる。基本的に入浴支援は午後となっている。必要によりシャワー浴・足浴・部分清拭での対応をしている。感染症予防の為に足ふきマットのタオル交換をしている。入浴剤の匂いや色に配慮して利用者が楽しく入浴できる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その時々に応じて休息しており、起床・就寝時間は本人のリズムに合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や服薬後の変化の確認に努めており入居者様に変化があった場合は直ぐに医療機関に相談できる体制があり調剤薬局・訪問介護ステーション・SWIにその都度ご相談しています。		

グループホームかつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ・音楽鑑賞、編み物、ゴミ箱作り、宗教等個々にあった楽しみができるように支援している。また夕食前に飲酒を楽しまれる入居者様もいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や介護タクシーと協力しできる限り希望に応じた外出ができるように努めています。季節ごとに行事計画を立てながら出かける機会を作っている。	年度計画の花見や紅葉などの季節感ある外出、ドライブでの外出や外食等は、現在のコロナ禍により外出は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方についてはご家族の了承を得て、少額の所持金を持って頂いています。買い物や支払いもしている。事務所で管理している方でも外出時はご自分で支払うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いています。本人からの訴え時は電話の取次ぎ・手紙の投函等のお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	郊外という事もあり自然も多く、外出時等は季節の訪れを感じることが出来る。室内の窓も大きく十分に日差しが入り、暖かく適温を心がけ居心地よく過ごせるようにしている。また季節感を感じ取れるように飾り付けを変えています。	感染症予防対策のために、温度・湿度管理や定期的な換気の実施と、アルコール消毒を施し、加湿器の増設と高性能空気清浄機のエアドッグを導入しながら、利用者と職員の安全な環境に努めている。居間や廊下には季節感ある飾り付けや行事の写真等が飾られ生活感ある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士のコミュニケーションもあり誘い合いゲーム・歌を楽しんでいる。個人では脳トレ・塗り絵・編み物等もされている。テレビ鑑賞など個々に共有空間で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談して理解を得ながら、できる限り使い慣れた馴染みの物を持参して頂き、安心して居心地よく過ごせるように努めています。	居室にはクローゼットが備え付けられ、利用者と家族が相談しながら馴染みの家具や仏壇等を持ち込み、家族の写真や手作品などが飾り、居心地の良い安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下・トイレ・浴室には手すりを設置しています。見やすい位置に時計・カレンダー・トイレのマーク等、必要に合わせて環境を整備し安全に自立した生活ができるように工夫しています。		